

2018 年度  
希望創発センター  
事業報告書

2019 年 5 月

高知大学 希望創発センター

# 目 次

はじめに

## 1. センター設立の世界観と教育研究システム・組織の概要

- (1) 設立に係る世界観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 教育研究システムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

## 2. 教育研究システムに係る活動実績

- (1) 希望創発研究会テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (2) 希望創発学習プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (3) 汎用的能力形成学習プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (4) 学習支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (5) 参画者支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

## 3. 管理運営に係る活動実績

- (1) 企画運営室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (2) ユニット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 運営推進委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (4) 協働機関評価委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

## 4. 2019年（令和元年）活動の強化ポイント

- (1) 教育研究システム関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- (2) 管理運営システム関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

## はじめに

21世紀は、人々の価値観が多様化し、社会の価値規範が絶え間なく変化する現代社会です。これまでの価値を大前提にした課題解決の思考では、多数の人々の幸せを実現することは極めて難しいと言われるこの時代に、高知大学は、科学万能主義に基づく人や社会、自然に対する哲学的思考からのパラダイムシフト、希望ある未来の創出を目指し、平成30年4月、希望創発センターを開設いたしました。

産官学、文理、高知・東京等の協働を軸に、常識を疑い、本質に迫る「問い」を立て、仮説・検証型のワークショップや実践プロジェクト等を通して「希望を創れる人材」の育成とイノベーションの持続的創発のインフラ（モデル）を構築すること、これが、センターのミッションです。

このミッションの実現を目指し、平成29年度は、全学組織として設置の「希望社会創発教育研究センター（仮称）設置準備委員会」においてとりまとめた「希望創発センター設置計画書」に基づき、開設に必要な関連規則の制定、教育研究システムを構成する学習プログラムやその運営体制の具体化を行ってきました。

平成30年度は、その実践初年度です。今回の『2018年度高知大学希望創発センター事業報告書』は、その取組をとりまとめたものです。まだまだ課題は山積みですが、本報告書でご報告する初年度の実績を基に、課題を一つひとつクリアし、ミッションの達成を目指していく所存です。

今後とも、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

高知大学希望創発センター

センター長 池田啓実

# 1. センター設立の世界観と教育研究システム・組織の概要

## (1) 設立に係る世界観

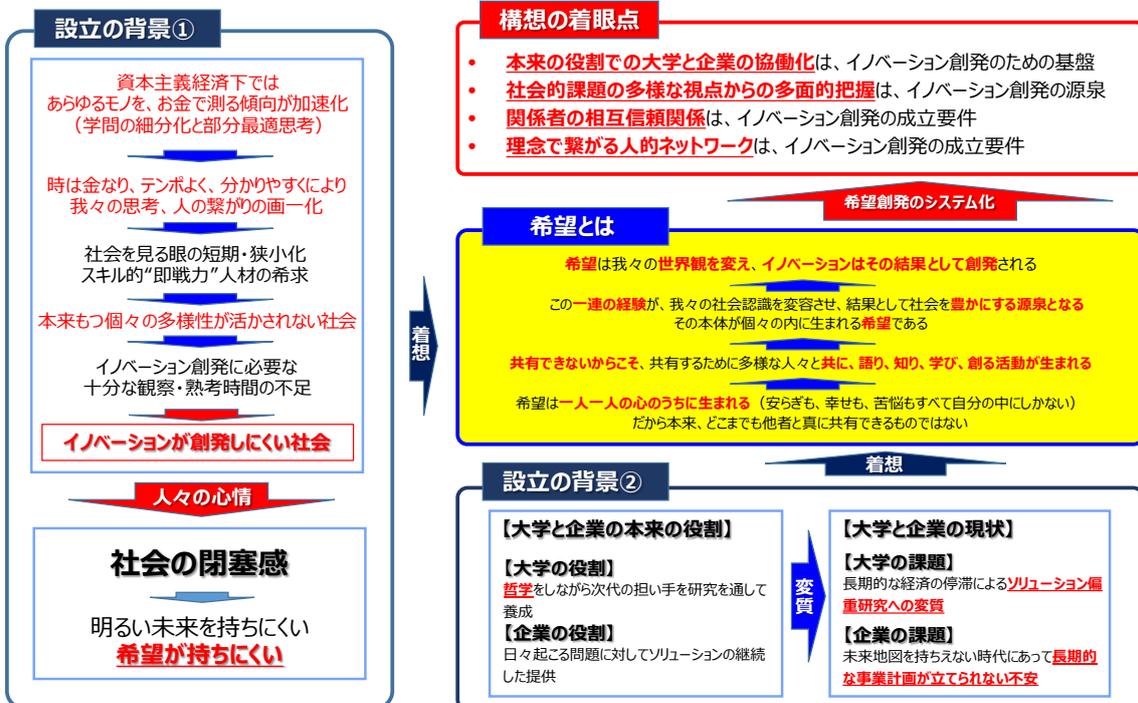
### ① 設立の背景

高知大学は、4年の準備期間を経て、2018年4月、希望創発センターを開設した。

この取組の起点には、【図 1-1-1】に示すように、資本主義経済下では、あらゆるモノを、お金で測る傾向が加速化（学問の細分化と部分最適思考）し、我々の思考や人の繋がりの一化、社会を見る眼の短期・狭小化、スキルの“即戦力”人材の希求など、本来もつ個々の多様性が活かされない社会を、我々自身が生み出してしまったとの反省がある。しかも、こうした状況は、イノベーション創発に必要な十分な観察・熟考時間を不足させ、イノベーションが創発しにくい社会をもたらすとともに、人々に社会的閉塞感を与え、明るい未来を、そして希望を持ちにくい社会を作り出してしまった。

その原因の一つは、大学と企業双方の本来的役割からの逸脱にあるというのが我々の認識であった。本来、大学は、哲学をしながら次代の担い手を研究を通して養成する役割を担い、企業は、日々起こる問題に対してソリューションを継続して提供する役割を担うはずのものが、実際には、大学は長期的な経済の停滞によるソリューション偏重研究へと変質し、企業も未来地図を持ちえない時代の中で長期的な事業計画が立てられない不安に陥っているのが実状だからである。

【図表 1-1-1】センター設立の背景・希望の源泉と構想の着眼点



## ② 希望の源泉

我々は、このような状態では、次世代を担う若者達に希望ある未来を受け渡すことはできないと考えた。「厄介」で「面倒」な問題であっても、誰かがこの問題に勇猛果敢に立ち向かって行かなければ、我々自らの手で希望ある未来を創ることはより困難となるとの思いから本センターの設立を目指すことになった。

その希望は、一人一人の心のうちに生まれる（安らぎも、幸せも、苦悩もすべて自分の中にしかない）ものである。だから本来、どこまでも他者と真に共有できるものではない。ただ、共有できないからこそ、共有するために多様な人々と共に、語り、知り、学び、創る活動が生まれ、そして、この一連の経験が、我々の社会認識を変容させ、結果として社会を豊かにする源泉となり、その本体が個々の内に生まれる希望になると、我々は捉えた。

## ③ センター構想の着眼点

設立するセンターは、教育と研究について、多様なステークホルダーと協働し、知る（深く、広く、感じる）、考える（学び考える、協働して実現する「意志」）、創る（意志を具体化し世の中に展開）ことの実践を通して「20年後の我々の希望ある未来を我々自身で具体的に共創する」ことにチャレンジしながら、下記の質に転換することを目的とした。

- ・（教育）俯瞰的な視点から社会の問題を捉え、なすべきことに向き合い、実際にそれを遂行する能力を有し、信念と希望に満ちた次世代の担い手を育成する。
- ・（研究）「物と力の新結合」から「人と人との新結合」というイノベーションの源泉シフトに対応する。

このように、イノベーション創発は、センターの目的の1つであるが、それは、「希望が我々の世界観を変化させる結果として創発される」と捉えた。センター名を希望創発センターとした由来は、ここにある。

そのイノベーションには、技術、経営、感性という3つの成分がある。とりわけ重要なのは、「人の審美観や心地よさに直接的に働きかける」という感性の成分だと言われる。この成分を創発する要件は、

- ・ 価値多様化社会における人々に共通の「審美観や心地よさ」の解明
- ・ これまでの常識では解決不可能と思われる現象を解決するための「仮説」の形成（知の創造）

と考えた。なお、この要件を創出するプロセスは、1) 社会的課題が顕在化する課題先進県の現状に対する多様な視点からの多面的把握と、2) 観察者たち自らの閃きによる、説明しうる複数の「普遍的事象（理論などの知的資産）」の出し合いと選択にあり、さらに、このプロセスが成立するには、1) 関係者間の壁を取り払い、ゴールに向かうための「共鳴場」醸成ツールの存在と、2) 理念で繋がる人的ネットワークの存在が必要と考えた。

以上のことを整理したのが、下記の項目である。

- ・ 本来の役割での大学と企業の協働化は、イノベーション創発のための基盤
- ・ 社会的課題の多様な視点からの多面的把握は、イノベーション創発の源泉
- ・ 関係者の相互信頼関係は、イノベーション創発の成立要件
- ・ 理念で繋がる人的ネットワークは、イノベーション創発の成立要件

我々は、これらの項目を構想の着眼点にセンターを設立するに至った。

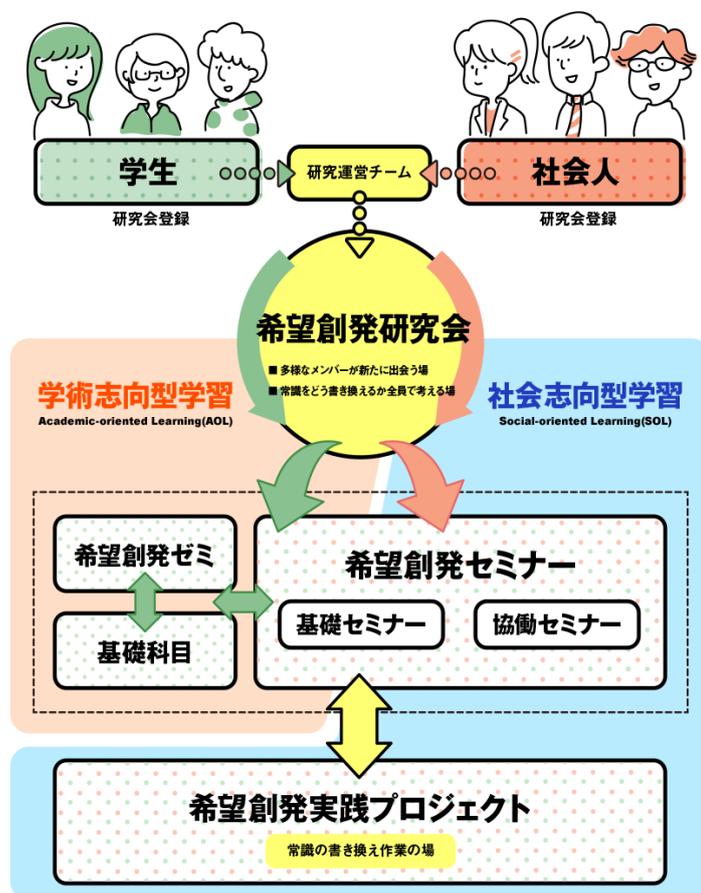
## (2) 教育研究システムの概要

希望創発教育システムは、1) 学習プログラム、2) 学習支援・参画者支援、3) 研究の基本スキームで構成される。

### ① 学習プログラム

学習プログラムは、希望創発学習と汎用的能力形成学習から成る。前者の希望創発学習プログラムは、【図表 1-2-1】に示すように「希望創発研究会」と「希望創発実践プロジェクト」を核に構成し、汎用的能力形成学習プログラムは、3年生以上が対象の希望創発研究会に1～2年生の登録を誘うためのものである。

【図表 1-2-1】希望創発学習プログラムの概念図



● 希望創発学習プログラム－希望創発研究会－

希望創発研究会は、産官学の幅広い参加者により、俯瞰的な問題認識と幅広い角度からの掘り下げ、具体的な課題設定と解決策の検討提案を行うことを目的とし、目的達成のために次のような工夫を採っている。

- \* 産官学協働の取組の利点を活かし、大学が得意とする「学術志向型学習 (AOL)」と企業等が得意とする「社会志向型学習 (SOL)」の視点から俯瞰的な問題認識と幅広い角度からの掘り下げに寄与する支援を実施
- \* 研究会は、毎月1回(原則、土日)高知にて例会を開催。その際、上記支援の1つとして「希望創発セミナー」の構成メニューである「基礎セミナー」ないしは「協働セミナー」を実施

【図表 1-2-2】研究会構成メニューの定義

研究会テーマ	研究運営チームのメンバー構成
学術志向型学習 (AOL; Academic-oriented Learning)	大学が長い歴史の中で蓄積してきた教養教育や専門教育を土台として普遍的な真理や高度に抽象化された概念理解を目指す学習
社会志向型学習 (SOL; Social-oriented Learning)	流動的な社会状況において、他者と共創する経験に基づいた学習
基礎セミナー (AOL タイプ)	担当講師の所属や身分に関係なく、イノベーション(0 から 1 へ、1 からその先へ)を創出する普遍的な方法論、考え方、思考プロセスを学ぶ講義・ワークショップ
協働セミナー (SOL タイプ)	担当講師の所属や身分に関係なく、社会でイノベーションに取り組むイノベーターの体験を通して、1)ビジョン、2)背景、3)ストーリー、4)障壁、5)ポリシーや具体策などを学ぶ講義

なお、希望創発研究会の運営(企画と実施)は、個別研究会については、以下の研究運営チームが担い、2つの研究会に共通する部分については、当該チームのリーダー、サブリーダーが構成員である企画運営室において立案し実施する体制とした。

【図表 1-2-3】研究運営チーム

	研究会テーマ	研究運営チームのメンバー構成
A	持続型・安全・安定食糧生産システムの開発と高知からの発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダー; 大嶋俊一郎(兼務教員・副センター長)</li> <li>・ サブリーダー; 宮本智司(特任教員・県外)</li> <li>・ メンバー               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 兼務教員; 渡辺茂(副センター長)、波多野慎悟</li> <li>◇ 客員教員; 元田勝人(県外)、中島好博(県外)、西村太助(県内)</li> </ul> </li> </ul>
B	医療・介護分野での課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダー; 池田啓実(兼務教員・センター長)</li> <li>・ サブリーダー; 加藤真(特任教員)</li> <li>・ メンバー               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 特任教員; 岡田一水(県内・クロスアポイントメント雇用)</li> <li>◇ 客員教員; 中島大輔(県外)、藤本治己(県外)、三橋明弘(県外)</li> <li>宮本高憲(県内)、円谷友英(県外・他大学教員)</li> </ul> </li> </ul>

また、例会の実施にあたっては、次のような運営方法や支援を行うこととした。

- ・ 各テーマ別研究会ともに、県内外の参画社員と登録学生が混在する5～6名によるチームを編成

- ・ SNS の学習支援システムを導入し、例会と例会のインターバル中のチーム議論や調査等の共有を支援
- ・ 本学の人的ネットワークを活用し、現場観察や関係者へのヒアリングなどの実施支援

● 希望創発学習プログラム－希望創発実践プロジェクト－

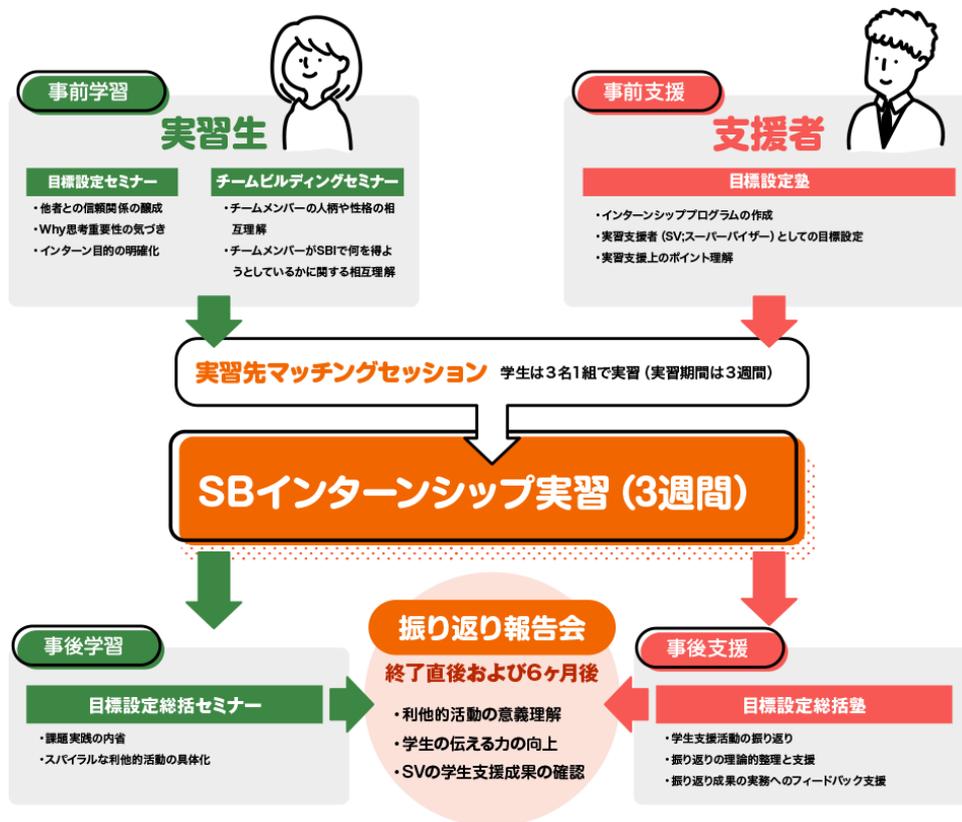
希望創発実践プロジェクトは、希望創発研究会において本質的課題やその解決策の基本的な構想を創出したチームのアイデアを具現化するための実践の場であり、理念を共有する外部企業や団体等と協働して実施する。

● 汎用的能力形成学習プログラム

汎用的能力形成学習プログラムは、本学が当該能力の形成を目的に、準正課として開発してきた、下図の 1) 人間関係形成インターンシップ (SBI ; Society Based Internship) や 2) 企業活動の理解実践、3) しごとの価値の実感実践などで構成するものである。

その中で、当学習の主要プログラムである人間関係形成インターンシップ (SBI) の特長は、以下の図からも分かるように、3人一組による15日間の実習で、事前・実習中・事後の支援学習を含めると180時間に及ぶインターンシッププログラムであり、実習生の支援を行う企業担当者であるスーパーバイザー (SV) に対しても同様に事前・実習中・事後の支援を行う点にある。

【図表 1-2-4】人間関係形成インターンシップ (SBI) の概要図



## ② 学習支援・参画者支援

### ● 学習成果のレビュー

学生登録者の学習成果のレビューは、授業の参加状況と提出されたリフレクション・ペーパーを基に行う。また、担当教員によるリフレクション・ペーパーに対するコメント等を通して、学習成果の深化を図る。

### ● 学習成果の保存・管理

希望創発研究会参画メンバーの学習成果の保存・管理等については、SNS システムを有効に活用し行う。

### ● 参画者支援

参画者のうち学生支援については、少なくとも学内教員が関わることを前提とする。その上で、学生のリフレクションを促すためのスタッフ面談やツールの開発・活用のほか、個別メンタリング、集団でのリフレクションの場の設定、日常的なリフレクションの仕組みを構築し、リフレクションの機会を定期的に設けるようにする。

## ③ 研究の基本スキーム

センターの研究活動は、希望創発学習プログラムの構成要素である「希望創発研究会」と「希望創発実践プロジェクト」を活用して行う。なお、希望創発研究会は、本学が教育研究の主眼とする「人と環境との調和のとれた発展に貢献」を基軸に、「持続可能な環境・社会づくり」を具現化する共創テーマ毎に設置する。

### ● 希望創発研究会の立ち上げと研究運営チームの設置・編成

企画運営室は、共創テーマをいくつかの重要な切り口毎に研究会を立ち上げるとともに、研究会の運営等を担う「研究運営チーム」の設置・編成を行う。設置した希望創発研究会は、テーマを深掘りして研究検討し、課題の解決を企画立案する。

### ● 希望創発実践プロジェクトの設置

企画運営室は、必要に応じて、大学と企業、団体とが協働し、希望創発研究会で検討された構想やアイデアを現実社会での実践で具現化する「希望創発実践プロジェクト」を設置する。参加者は希望創発研究会とは別途の登録制とする。運営実施期間は2～3年とし、テーマにより決定する（延長もある）。

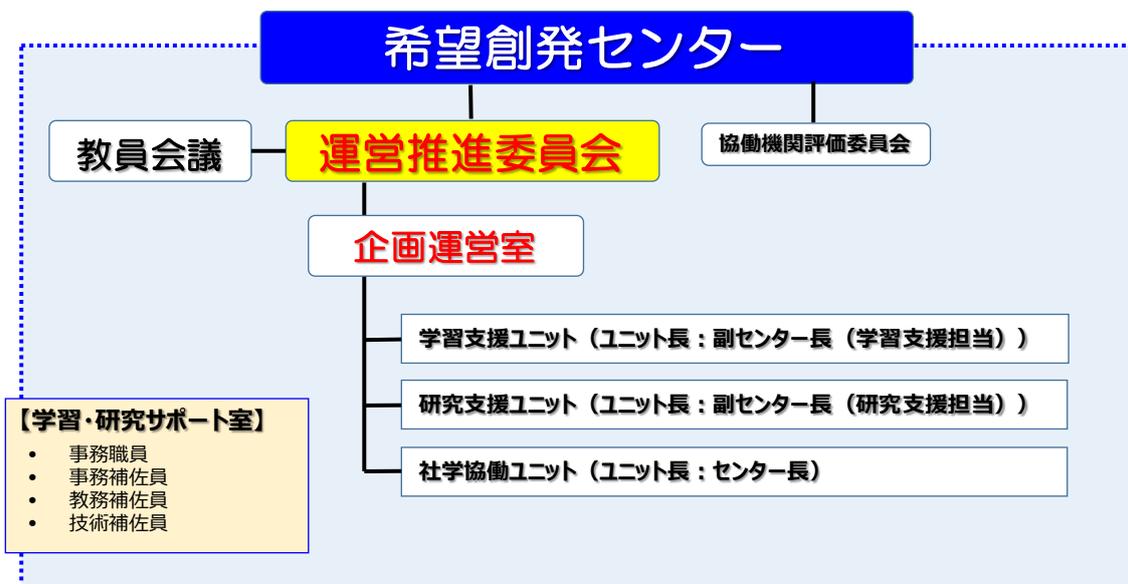
## (3) 組織の概要

### ① 管理運営体制

本センターの企画運営・支援システムについては、平成29年度末に制定した「高知大学

希望創発センター規則」「高知大学希望創発センター企画運営室規則」及び「高知大学希望創発センター運営推進委員会規則」に基づき、下記【図表 1-3-1】の体制を構築した。各機関の役割は、以下の【図表 1-3-2】のとおりである。

【図表 1-3-1】希望創発センターの管理運営体制



【図表 1-3-2】設置機関の役割一覧

設置名称	役割
運営推進委員会	センターの運営に関する重要事項について審議
企画運営室	日常的運営機関として、(1)センターの運営に関すること、(2)中期目標・中期計画及び年度計画に関すること、(3)希望創発教育研究システムの設計及び運営に関すること、(4)人事に関すること、(5)財務に関すること、(6)規則の制定・改廃に関すること、(7)その他センターの業務に関する必要なことについての検討・実施
ユニット	教員メンバー(兼務、特任、客員)と学習・サポート室メンバーで構成する企画運営室の効率的運営を企図した機関
学習・サポート室	希望創発教育研究システムの実施支援、事業に参画する教員及び学生の日常的支援
協働機関評価委員会	参画社員派遣企業においては協働関係の立場から、また専門的な知見を有する学識経験者の立場から事業目的との整合性について評価
教員会議	すべての各種教員(兼務、特任、客員)で構成し、センターの運営全般に関する情報共有、意見交換を行う場

## ② 人員構成

センターの平成 30 年度の人員構成は、以下の図表にあるように、教員格メンバーとして、センター長、副センター長 2 名を含む学内教員（兼務教員）10 名と特任教員 4 名（うち 1 名はクロスアポイントメント制度の適用による雇用）に加え、客員教員として、現職の企業関係者 10 名（県内 3 名、県外 7 名）と他大学の教員 2 名で構成した。また、センター担当事務として学務部学務課に学習・研究サポート室を設置し、室長（学務課長兼務）1 名、事

務職員 1 名と非常勤職員 3 名（教務補佐員、事務補佐員及び技術補佐員各 1 名）を配置した。

【図表 1-3-3】兼務教員の所属・役割一覧

氏名	所属学部等	主な担当業務
池田 啓実	地域協働学部	センター長、社会学協働ユニット長
渡辺 茂	理工学部	副センター長、研究支援ユニット長
大嶋俊一郎	農林海洋科学部	副センター長、教育開発・学習支援ユニット長
栗原 幸男	医学部・看護学科	新規研究会設置準備会、基礎セミナー講師
大石 達良	地域協働学部	SBI、教育開発・学習支援ユニット・学生支援・評価
高橋 俊	人文社会科学部	新規研究会設置準備会、社会学協働ユニット・広報
波多野慎吾	理工学部	SBI、教育開発・学習支援ユニット・ICT・ポートフォリオ
石塚 悟史	次世代地域創造センター	社会学協働ユニット・アドミッション
長崎 慶三	農林海洋科学部	基礎セミナー講師
加藤 元海	理工学部	

【図表 1-3-4】特任教員及び客員教員の所属一覧

種別	氏名	職位	本務
特任教員	中澤 二朗	教授	元新日鉄ソリューションズ株式会社 人事部長
	宮本 智司	教授	元旭有機材株式会社 社外取締役常勤監査等委員
	加藤 真	教授	客将代表 / 元株式会社富士通総研 取締役執行役員常務
	岡田 一水*	准教授	株式会社高知銀行大正支店 支店長
客員教員	元田 勝人	教授	全国健康保険協会 東京支部長
	中島 哲	教授	日本自動車会議所 専務理事(前トヨタ自動車株式会社 東京総務部長)
	中島 好博	教授	パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 取締役執行役員人事・総務部部长
	中島 大輔	教授	日本電気株式会社 ビジネスイノベーション企画本部 本部長
	藤本 治己	教授	株式会社ファーストリテイリング 人事部部长
	船木 成記	教授	長野県参与 / 株式会社博報堂テーマビジネス開発局パブリックアフェアーズ部
	三橋 明弘	教授	旭化成エレクトロニクス株式会社人事室 人事室長
	宮本 高憲	教授	株式会社高南メディカル 代表取締役社長
	中澤 陽一	教授	和建設株式会社 代表取締役
	円谷 友英	准教授	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 准教授
	佐藤 智子	准教授	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授 / 学習支援センター 副センター長
西村 太助	助教	株式会社高知銀行 経営統括部業務役	

「\*」付きは、クロスアポイントメント制度適用による雇用

## 2. 教育研究システムに係る活動実績

### (1) 希望創発研究会テーマ

希望創発研究会テーマ設定の基礎となる共創テーマは、平成 29 年度の「希望社会創発教育研究センター（仮称）設置準備委員会」において、本学が教育研究の主眼とする「人と環境との調和のとれた発展に貢献」と「持続可能な環境・社会づくり」を基軸に、「A：高知発の次世代食糧システム」と「B：高知発の次世代社会システム」とした。

希望創発研究会テーマは、下記の図表にあるとおり、6つの候補の中から平成 30 年度は、共創テーマ（A）は「持続型・安全・安定食糧生産システムの開発と高知からの発信」のテーマで、共創テーマ（B）は「医療・介護分野での課題解決」をテーマとする研究会を開発した。

【図表 2-1-1】研究の計画一覧表

共創テーマ	希創研究会		希創実践プロジェクト テーマ
	テーマ	立上時期の目安	
【A】 高知発の次世代 食糧システム	【A-1】 持続型・安全・安心食糧生産シ ステムの開発と高知からの発信	○H30 年度開設 H30 年度の開設を目指す。 並行して実践PJの立ち上げ を準備する。 進め方は研究会で十分に検 討する。	PJ①；次世代食糧の実 証研究（陸上養殖の開 発）  PJ②；病原菌の迅速検 出・検査法の開発
	【A-2】 農業後継者づくりの協働システ ム創出（仮題）	○H31 年度開設で検討 県内の農地所有適格法人 の支援を軸に検討	
	【A-3】 IT、IOT、AI を駆使した次世代食 糧システムの考察	○未定 【A-1】テーマと一部重なるた め、【A-1】の進展をみて立 ち上げを判断する。	
【B】 高知発の次世代 社会システム	【B-1】 高知県の医療・介護の実態を踏 まえ、産学官のインフラを活用し たビジネス提案と実践－医療・介 護ビジネス－	○H30 年度開設 H30 年度の開設を目指す。 企業への参加募集が鍵	
	【B-2】 ダイバシティ型相互支援コミュ ニティ創出の「肝」抽出－学寮と 起業等支援機能内包を前提に －	○開設条件の整備 学外常駐者 3 名の確保が 研究会立上の条件。見通し が付き次第、開設。	〈PJ 案〉 ・実験島実現プランづ くり ・起業等支援策の具現 化
	【B-3】 「日本」の高知を「世界」の高知 に変貌させる条件抽出	○未定 大きなテーマであり、研究 の切り口の絞りが必要。 H30 年度以降に検討する。	

## (2) 希望創発学習プログラム

### ① 希望創発研究会

#### ● 研究会テーマと活動方針

平成 30 年度は、下記の研究会活動方針の下、研究会を月 1 回（原則、土日）の例会として開催した。

【図表 2-2-1】各研究会の活動方針

	研究会テーマ	活動方針
A	持続型・安全・安定食糧生産システムの開発と高知からの発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々が健康で、幸せに人生を送る事ができる「食」を提案</li> <li>高知大学の固有先端技術と高知県の恵まれた農林水産資源を有機的に結び付け、次世代食糧生産システムを提案</li> <li>枯渇が指摘される水産資源の現状について分析研究</li> <li>専門的な生産課題対応の中でも、安全な流通、消費などの観点も含めた提案</li> </ul>
B	医療・介護分野での課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護の課題を広く俯瞰し、重点とする課題解決対象セグメントを決定</li> <li>病院・介護施設、製薬、罹患者といった専門的課題以外にもフォーカス</li> <li>予防や家族支援も含めた社会の営みの全体像に対する俯瞰的視点から『切実なニーズ』への対応の検討</li> </ul>

#### ● 参画社員（社会人登録者）の募集

希望創発研究会は、本事業の理念に共鳴する企業から派遣の参画社員（主に 30 代～40 代）と 3 年生以上の学部生及び大学院生で構成する。平成 30 年度の参画社員確保は、特任、客員、兼務の各教員の人的ネットワークを活用し行った結果、県外企業 13 社 13 名、県内企業 6 社 7 名からの参画を実現した。

【図表 2-2-2】参画社員派遣企業一覧（カッコ内の地名は派遣社員所属組織の所在地）

県外企業 13 社 13 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭化成エレクトロニクス株式会社(東京)</li> <li>旭化成株式会社(東京)</li> <li>イオンアイビス株式会社(千葉)</li> <li>株式会社カウネット(東京)</li> <li>栗田工業株式会社(東京)</li> <li>ココヨ株式会社(大阪)</li> <li>ソニーグローバルマニュファクチャリング&amp;オペレーションズ株式会社(愛知)</li> <li>株式会社ダイセル(姫路)</li> <li>帝人ファーマ株式会社(東京)</li> <li>帝人フロンティア株式会社(大阪)</li> <li>パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社(東京)</li> <li>株式会社ファーストリテイリング(東京)</li> <li>富士通株式会社(東京)</li> </ul>
県内企業 6 社 7 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>和建設株式会社</li> <li>株式会社高知銀行(2 名派遣)</li> <li>株式会社センブラン研究所</li> <li>株式会社高南メディカル</li> <li>チカミルテック株式会社</li> <li>南海化学株式会社</li> </ul>

#### ● 登録学生の募集

平成 30 年度の登録学生の募集は、初年度の成否がセンター事業の価値に大きく影響する

ことを考慮し、設置計画書作成に深く関わった学内教員ルートに限定して行った。ただし、医学部については、学部からの要請により、4月のオリエンテーション時に医学科（対象：新2年生）と看護学科（対象：3年次編入生と新2年生）において説明会を行い、看護学科の3年次編入生1名が登録した。なお、学生の登録にあたっては、登録のミスマッチを防ぐため、オリエンテーション的位置づけで開催する希望創発研究会・4月例会の体験を踏まえ、本登録をするか否かを4月末までに判断する方式で行った。結果、18名の登録学生を得た。

【図表 2-2-3】登録学生の所属一覧

大学院(11名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合人間自然科学研究科 黒潮圏科学専攻(D2・1名)</li> <li>総合人間自然科学研究科 農学専攻(M2・1名、M1・3名)</li> <li>総合人間自然科学研究科 理学専攻(M2・1名、M1・4名)</li> <li>総合人間自然科学研究科 TSP-GS(M1・1名)</li> </ul>
学部(7名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学部(4年・1名)</li> <li>医学部・看護学科(3年・1名)</li> <li>農学部(4年・3名)</li> <li>地域協働学部(3年・2名)</li> </ul>

● 希望創発研究会のメンバー構成

設置した2つの希望創発研究会のメンバー構成は、活動の多様性を担保するため、参画社員については、勤務先所在地のバランスを重視して分属先を決めた。一方、学生に関しては、彼らのモチベーションを重視し、希望優先で分属先を確定した。

【図表 2-2-4】Aテーマ研究会のメンバー構成

参画社員				登録学生			
連番	性別	所属組織	在任地	連番	性別	学年	所属学部・大学院
1	男	株式会社カウネット	首都圏	1	男	D3	総合人間自然科学研究科 黒潮圏科学専攻
2	女	ハナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	首都圏	2	男	M2	総合人間自然科学研究科 農学専攻
3	男	旭化成株式会社	首都圏	3	男	M2	総合人間自然科学研究科 理学専攻
4	男	栗田工業株式会社	首都圏	4	男	M1	総合人間自然科学研究科 農学専攻
5	男	帝人フロンティア株式会社	大阪	5	男	M1	総合人間自然科学研究科 農学専攻
6	男	株式会社ダイセル	姫路	6	男	M1	総合人間自然科学研究科 農学専攻
7	男	チカミルテック株式会社	高知	7	男	M1	総合人間自然科学研究科 理学専攻
8	男	南海化学株式会社	高知	8	女	M1	総合人間自然科学研究科 理学専攻
9	男	株式会社高知銀行	高知	9	男	4年	理学部応用理学科応用化学コース
				10	男	4年	農学部
				11	男	4年	農学部
				12	男	4年	農学部

【図表 2-2-5】Bテーマ研究会のメンバー構成

参画社員				登録学生			
連番	性別	所属組織	在任地	連番	性別	学年	所属学部・大学院
1	男	富士通株式会社	首都圏	1	男	M1	総合人間自然科学研究科 理学専攻
2	男	イオン化ビス株式会社	首都圏	2	男	M1	総合人間自然科学研究科 理学専攻
3	男	帝人ファーマ株式会社	首都圏	3	男	M1	総合人間自然科学研究科 TSP-GS
4	男	旭化成エレクトロニクス株式会社	首都圏	4	女	3年	医学部看護学科
5	男	株式会社ファーストリテイリング	首都圏	5	女	3年	地域協働学部
6	男	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	愛知	6	女	3年	地域協働学部
7	男	コクヨ株式会社	大阪				
8	女	株式会社センプラン研究所	高知				
9	女	株式会社高南メディカル	高知				
10	男	和建設株式会社	高知				
11	男	株式会社高知銀行	高知				

● 希望創発研究会の参加状況

希望創発研究会の月1回（原則、土日）の例会は、台風の影響で中止とした8月例会を除き、11回開催した。メンバーの例会参加状況は、以下の図表のとおりである。

【図表 2-2-6】希望創発研究会（例会）別参加状況

例会	日時		場所	参画社員（人）	学生（人）	計	参画社員（%）	学生（%）
4月例会	2018年4月14日	9:30-19:10	高知城ホール	19	17	36	100.0	81.0
	2018年4月15日	9:00-16:00		18	16	34	94.7	76.2
5月例会	2018年5月12日	9:30-20:00	高知城ホール	19	19	38	95.0	95.0
	2018年5月13日	9:00-16:00		19	18	37	100.0	90.0
6月例会	2018年6月9日	9:30-19:20	高知城ホール	18	16	34	94.7	88.9
	2018年6月10日	9:00-16:00		18	16	34	94.7	88.9
7月例会	2018年7月14日	9:30-20:00	高知城ホール	19	10	29	100.0	76.9
	2018年7月15日	9:00-16:00		20	12	32	100.0	70.6
9月例会	2018年9月15日	10:30-21:30	土佐ロイヤルホテル	18	11	29	100.0	73.3
	2018年9月16日	8:45-16:00		19	12	31	100.0	80.0
10月例会	2018年10月20日	10:30-19:00	高知大学朝倉キャンパス	17	12	29	100.0	85.7
	2018年10月21日	9:00-16:00		17	13	30	100.0	86.7
11月例会	2018年11月10日	10:30-19:00	高知大学朝倉キャンパス	17	15	32	89.5	93.8
	2018年11月11日	9:00-16:00		17	14	31	89.5	87.5
12月例会	2018年12月8日	10:30-19:30	高知大学朝倉キャンパス	19	17	36	100.0	100.0
	2018年12月9日	9:00-16:00		20	17	37	100.0	100.0
1月例会	2019年1月12日	10:30-19:00	高知大学朝倉キャンパス	19	14	33	95.0	82.4
	2019年1月13日	9:00-16:00		19	13	32	95.0	76.5
2月例会	2019年2月10日	10:30-19:00	高知大学朝倉キャンパス	18	14	32	90.0	82.4
	2019年2月11日	9:00-16:00		18	14	32	90.0	82.4
3月例会	2019年3月9日	10:30-19:30	高知大学朝倉キャンパス	20	17	37	100.0	94.4
	2019年3月10日	9:00-16:00		20	17	37	100.0	94.4

※ 出席率（%）の算出にあたって、参画社員は本務、学生は正課授業で欠席の者は母数から除いた。

● 希望創発研究会（例会）プログラム

希望創発研究会（例会）では、「俯瞰的な問題認識と幅広い角度からの掘り下げ、具体的な課題設定と解決策の検討提案を行う」ための支援として、以下に示す研究会共通のプログラムと研究会個別プログラムで構成し実施した。

研究会共通のプログラムは、1) 理念醸成・信頼関係強化プログラム、2) 希望創発セミナーの構成メニューの「基礎セミナー」と「協働セミナー」で構成した。具体的な実施内容は、【図表 2-2-7】のとおり。

各研究会の個別プログラムは、先に示した【図表 2-2-1】のテーマ別研究会活動方針に基づき、プログラムの内容を策定した。具体的に実施した内容は、【表 2-2-8】のとおりである。

【図表 2-2-7】研究会共通のプログラム

回数	例会開催日	開催セミナー（両テーマ共通）	回数	例会開催日	開催セミナー（両テーマ共通）
1	4/14(土)～15(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念醸成セミナー（14日）</li> <li>「答えのない世界への取組」の意義①</li> <li>講師：大嶋俊一郎氏（兼務教員・農林海洋科学部教授）</li> <li>講師：長野崇参与/尾崎嗣嗣 船木成記氏（客員教授）</li> <li>●高知の歴史から学ぶ（14日）</li> <li>・市内探索とそのレビュー</li> <li>●協働セミナー（14日）</li> <li>「現在の高知を知る」（講師：元高知商工労働部長 中澤一真氏）</li> <li>「現在の世界を知る」（講師：横山アツシ 代表取締役 広石拓司氏）</li> <li>「文明としての医学 文化としての医療学」（講師：元高知大学長 相良祐輔氏）</li> <li>●基礎セミナー（15日）</li> <li>「成人の学習の意味と意義を考える」ワークショップ</li> <li>（講師：東北大学准教授 佐藤智子氏（客員准教授））</li> </ul>	6	10/20(土)～21(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎セミナー（20日）</li> <li>「「共鳴場」創発のメカニズムと主要因子「信頼」の効用例</li> <li>講師：池田啓美氏（兼務教員・地域協働学部教授）</li> <li>「色案に魅せられて」</li> <li>講師：高辺茂氏（兼務教員・理工学部教授）</li> </ul>
2	5/12(土)～13(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念醸成セミナー（12日）</li> <li>「答えのない世界への取組」の意義②</li> <li>講師：大嶋俊一郎氏（兼務教員・農林海洋科学部教授）</li> <li>講師：長野崇参与/尾崎嗣嗣 船木成記氏（客員教授）</li> <li>●基礎セミナー（13日）</li> <li>「ビジネスの創造と持続を考える」</li> <li>（講師：日本電気㈱ビジネスイノベーション企画本部 中島大輔氏（客員教授））</li> </ul>	7	11/10(土)～11(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協働セミナー（10日）</li> <li>「フライングを速く目指すこと」</li> <li>講師：井上石炭工業株式会社 代表取締役社長 井上孝志氏</li> </ul>
3	6/9(土)～10(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念醸成セミナー（9日）</li> <li>「答えのない世界への取組」の意義③</li> <li>講師：大嶋俊一郎氏（兼務教員・農林海洋科学部教授）</li> <li>講師：長野崇参与/尾崎嗣嗣 船木成記氏（客員教授）</li> <li>●基礎セミナー（10日）</li> <li>「研究者の想いに触れる」</li> <li>（講師：長崎慶三氏（兼務教員・農林海洋科学部教授））</li> </ul>	8	12/8(土)～9(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別協働セミナー（8日）</li> <li>「リチウムイオン電池とイノベーション」</li> <li>講師：旭化成㈱名誉フェロー 吉野彰氏</li> </ul>
4	7/14(土)～15(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念醸成セミナー（15日）</li> <li>「答えのない世界への取組」の意義④」（講師：大嶋氏（兼務教員）・船木氏（客員教授））</li> </ul>	9	1/12(土)～13(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎セミナー（12日）</li> <li>「未定」（講師：東原幸男氏（兼務教員・医学部看護学科教授））</li> </ul>
-	8/23(木)～24(金)	合宿（台風による中止）	10	2/10(日)～11(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎セミナー（10日）</li> <li>「未定」（講師：未定（兼務教員））</li> </ul>
5	9/15(土)～16(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【合宿】</li> <li>●1日目メニュー</li> <li>オリエンテーション&amp;アイスブレイク、何故「希望創発センター」が生まれたか？、月例会4回の振り返り</li> <li>学生企画；「一人一話」「〇〇の部屋」（本音を言葉に語る）</li> <li>思考と論証のトレーニング①（講師：東北大学准教授 佐藤智子氏（客員准教授））</li> <li>●2日目メニュー</li> <li>チームビルディングワーク、全体ラップアップ</li> <li>思考と論証のトレーニング②（講師：東北大学准教授 佐藤智子氏（客員准教授））</li> </ul>	11	3/9(土)～10(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎セミナー（9日）</li> <li>「未定」（講師：未定（兼務教員））</li> </ul>

【図表 2-2-8】各研究会個別のプログラム

回数	例会開催日	Aテーマ	Bテーマ
1	4/14(土)～15(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次回研究会支援（15日）</li> <li>・ジローさんの追熟教室「農業の本質的課題を探る」（講師：中澤二郎氏（特任教授））</li> </ul>	・グループワーク（次回からの進め方の検討）
2	5/12(土)～13(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「すじなし屋」方式による「観る・聴く」（12日）</li> <li>・農業生産法人株式会社南国スタイル専務 中村文隆氏</li> <li>●協働セミナー（12日）</li> <li>・「現代農業の現状と課題」（講師：高知県農業振興部 環境農業推進課 岡林俊宏氏）</li> <li>●次回研究会支援（12日）</li> <li>・ジローさんの追熟教室「農業の本質的課題を探る」（講師：中澤二郎氏（特任教授））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（課題の絞り込み）</li> <li>・「すじなし屋」方式による元高知大学長 相良祐輔氏の医療・介護に対する想いの深堀</li> </ul>
3	6/9(土)～10(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「すじなし屋」方式による「観る・聴く」（9日）</li> <li>・有限会社久保水産 久保栄作氏</li> <li>●協働セミナー（9日）</li> <li>・「漁業の現状と課題」（講師：高知県水産試験場 岡部正也氏）</li> <li>●次回研究会支援（10日）</li> <li>・ジローさんの追熟教室「林業の本質的課題を探る」（講師：中澤二郎氏（特任教授））</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（課題の絞り込み、現場観察等）</li> <li>・元高知大学長 相良祐輔氏によるグループ毎の検討内容についてのコメント</li> </ul>
4	7/14(土)～15(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「すじなし屋」方式による「観る・聴く」（14日）</li> <li>・株式会社とされいほく 半田 州南氏</li> <li>●協働セミナー（14日）</li> <li>・「林業の現状と課題」（講師：高知県木材産業振興課 小原忠氏）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト報告会</li> <li>・振り返り等</li> </ul>
-	8/23(木)～24(金)		
5	9/15(土)～16(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月以降の進め方についての検討</li> <li>・グループ編成</li> </ul>	・10月以降の進め方についての検討
6	10/20(土)～21(日)	・グループワーク（課題発掘とテーマ設定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（課題の真の原因探究、解決策の方向性検討）</li> <li>・関係機関等へのヒアリング</li> </ul>
7	11/10(土)～11(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（課題の真の原因探究、解決策の方向性検討）</li> <li>・補充の現場観察等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（解決策の方向性検討）</li> <li>・関係機関等へのヒアリング</li> </ul>
8	12/8(土)～9(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（解決策の方向性検討）</li> <li>・補充の現場観察等</li> </ul>	・プロジェクト報告会
9	1/12(土)～13(日)	・グループワーク（解決策の具体的な方策の検討）	・グループワーク（解決策の具体的な方策の検討）
10	2/10(日)～11(月)	・グループワーク（報告会準備）	・グループワーク（報告会準備）
11	3/9(土)～10(日)	合同発表会、振り返り等	合同発表会、振り返り等

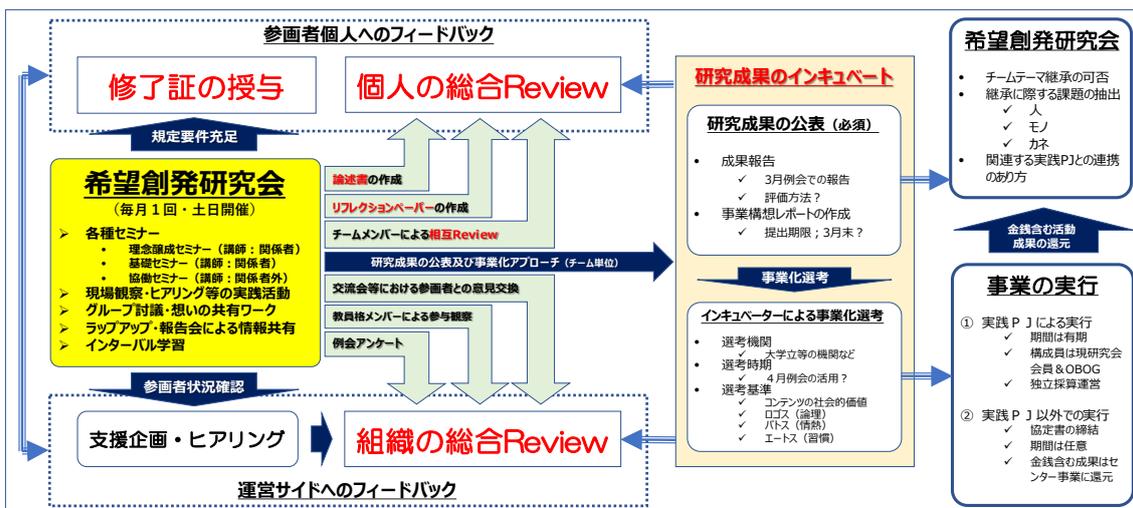
● 特別協働セミナーの開催

希望創発研究会（12月例会）の協働セミナーは、携帯電話やノートパソコン等 IT 機器の電源として用いられるリチウムイオン二次電池の発明者で、ノーベル化学賞の候補にも名前が挙がる世界的に著名な旭化成（株）名誉フェローの吉野彰氏を招聘し、学内外に公開する「特別協働セミナー（演題；リチウムイオン電池とイノベーション）」として開催した。参加者は、研究会参画社員や登録学生の外、一般学生等も含め、101名であった。

② 希望創発実践プロジェクト

平成30年度は、希望創発研究会のプログラム開発と実施を主眼に置いたため、研究成果の事業化フロー機能の1つである希望創発実践プロジェクトの仕組みについては、年度後半から検討を開始し、下記【図表2-2-9】のイメージ案を作成した。希望創発実践プロジェクトに係る箇所は、「研究成果のインキュベート」と「事業の実行」の部分である。今後は、この素案をベースに仕組みの具体化を図る予定である。

【図表 2-2-9】教育研究の仕組みと研究成果の事業化フローの概念図



(3) 汎用的能力形成学習プログラム

① 取組実績

平成30年度の汎用的能力形成学習プログラムは、15期と16期の人間関係形成インターンシップ（SBI）のみ実施した。実習生の数は、以下の図表にあるとおり、15期及び16期ともに9名の計18名であった。一方、受入企業は、2期とも3社となり、2期連続はオリエントホテル高知株式会社と株式会社高南メディカルの2社、1期のみが15期の株式会社ファースト・コラボレーションと16期の丸和建设株式会社となった。

【図表 2-3-1】実習生の属性一覧

	学部	学年			計	男女別		計
		1年	2年	3年		女性	男性	
15期	人文社会科学部	0	0	1	1	1	0	1
	地域協働学部	5	3	0	8	3	5	8
	計	5	3	1	9	4	5	9
16期	学部	学年			計	男女別		計
		1年	2年	3年		女性	男性	
	教育学部	1	0	0	1	0	1	1
	理工学部	3	2	0	5	4	1	5
	地域協働学部	3	0	0	3	3	0	3
計	7	2	0	9	7	2	9	

## ② 2019年（令和元年）度の希望創発研究会への登録状況

汎用的能力形成学習プログラムは、希望創発研究会への登録誘因策の1と位置付けるものである。希望創発研究会への登録は、原則、3年生以上としていることから、人間関係形成インターンシップ（SBI）においても3年生と2年生がその対象となるが、人文系の学生の場合4年次が就職活動の時期となるため、事実上、人文系の3年生は対象外となる。

この考えに従えば、平成30年度のSBIは、対象は5名（地域協働学部3名、理工学部2名）となる。このうち、地域協働学部の2名と理工学部1名の3名が2019年（令和元年）度の研究会に登録した。60%の登録率である。最終的には、平成29年度の実習生1名（地域協働学部2年）も登録したことから、SBI実習経験者の登録は4名ということになった。これは、2019年（令和元年）度の新規登録者13名の31%である。

以上のことから、少なくとも人間関係形成インターンシップ（SBI）は、託された狙いである希望創発研究会登録に学生を誘えるプログラムだと言えそうである。

## （4） 学習支援

### ① 学習成果のレビュー

学習成果のレビューは、設置計画書作成時はその具体的方法が未確定だったため、当面は登録学生のみを対象としていた。その後、それが具体化するにつれ、レビューが参画社員はむろんのこと派遣元企業にとっても有益であることが明らかになったことから、急遽、参画者全員に、研究成果を「個人論述書（3,000字～10,000字）」として、また、自身の活動の振り返りを「リフレクション・ペーパー」として提出してもらうことに変更した。最終的には、これらの提出物を基に、企画運営室メンバーが中心となって「個人レビュー」を行い、2019年（令和元年）5月末を目途にその結果を本人にフィードバックすることで、学生はもとより参画社員の学習成果の深化を図ることとした。

### ② 学習成果の保存・管理

希望創発研究会（例会）は、県内外から参集した企業人と学生で編成されたチームが社会

課題の抽出および解決策について議論する場である。そのため、研究会の構成員をはじめ、学習・研究サポート室と教員、あるいはチームメンバー間の各種情報の交換や有用情報の共有、さらに連絡・相談事項などに利用する様々な情報ネットワークの構築に向けた要望が、研究会（例会）を重ねるごとに高くなった。

こうした状況への対応として、設置計画書の作成時は、本学の学修 e ポートフォリオシステムの活用を想定していたが、同システムは客員教員などの学外者が使用できないことが判明したため、この制約を受けず学外学習をサポートする学習支援システム (C-Learning) を 2018 年 5 月より導入し、教材（研究会で開催されたセミナー等を撮影したビデオや関連資料など）の提供のほか、グループワーク機能の「協働板」を通じた連絡事項の伝達、課題の連絡・提出、アンケートを実施した。

また、回を重ねるにつれて、研究会以外の場面でチームメンバー間のコミュニケーションを活発化する必要が高くなったことにより、学内グループウェア (サイボウズ) に本センター専用ポータルを開設し、ライブラリー機能を使った各種有用情報の共有及び掲示板を使ったメンバー間の報告、連絡、相談を支援する体制を整えた。

以上のような情報ネットワーク環境の整備を行うことに、参画者からは、「チーム調査資料やプレゼン資料を C-Learning で共有しようという動きには感謝」「C-Learning での資料共有で新しいヒントや企画が生まれるかもしれない。期待しています」という声が寄せられた。

その後、C-Learning によるアンケートに、「ネットが使えるようになって情報を共有しながら議論しやすくなった」「動画に残されているので、各グループの発表・コメント等を再度確認できて良かった」といった肯定的な感想が見られたほか、研究会活動における参画者からの様々な要望などにも迅速に対応することができるようになったなど、情報ネットワーク環境の整備は、研究会活動の質を高めることに寄与するものであった。

【図表 2-4-1】希望創発研究会活動支援のために導入したシステム

導入システム名	導入の時期・経費等
学習支援システム C-Learning	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時期;2018 年 5 月 1 日、利用期間(1 年)</li> <li>・初期設定費 100,000 円(税抜)</li> <li>・年間ライセンス料 600,000 円(税抜)、利用人数(契約人数)200 人</li> </ul>
学内グループウェア サイボウズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時期;2018 年 11 月 1 日</li> <li>・構築における費用 175,000 円(初年度)</li> <li>・メンテナンス等費用 60,000 円(翌年度以降)</li> </ul>

## (5) 参画者支援

平成 30 年度は、学生のみならず参画社員も対象にしたリフレクションを促すための教員・

スタッフによる面談や集団でのリフレクションの場として、「学生MOG」と「参画社員MOG」を実施した。詳細は、【図表 2-5-1】と【図表 2-5-2】のとおりである。

学生MOGは、社会教育学を専門とする客員教員（東北大学教員）や特任教員の支援を受けたことにより、その場が「自分と向き合う」場として、また自分自身を深く理解する場となったことから、「哲学カフェ」のような場として定期的で開催されるものへと進化した。

他方、県内企業が派遣元である参画社員にとって希望創発研究会（例会）での活動は、当初、非常に戸惑いの多いものであったが、参画社員MOGにおいて、特任教員による話題提供、問題提起、整理などの支援を受けたことで、参加者から「研究会（例会）に参加したことで、ものごとを広く、深く考えるように見方が変化した」などの発言が出てくるなど、参画社員の気持ちを汲み取り、彼らが研究会（例会）で感じたことを率直に話ができる場として機能を果たした。また、これとは別に、彼らの研究会活動の質の向上支援として、7月～11月にかけて企画運営室メンバーがすべての職場を訪問し、当人及び派遣責任者等への面談を行った。

【図表 2-5-1】学生 MOG 実施一覧

	日時	支援教員
第1回	4/21(土)14:00-17:00	中澤二郎(特任教員)、岡田一水(特任教員)、佐藤智子(客員教員)
第2回	5/19(土)14:00-17:00	中澤二郎(特任教員)、岡田一水(特任教員)、佐藤智子(客員教員)
第3回	7/21(土)10:00-14:45	中澤二郎(特任教員)
第4回	10/12(金)17:00-18:30	
第5回	11/16(金)17:00-18:30	
第6回	11/30(金)16:30-19:30	中澤二郎(特任教員)
第7回	12/21(金)17:00-18:30	佐藤智子(客員教員)
第8回	1/18(金)17:00-18:30	
第9回	2/18(月)10:00-13:00	
第10回	2/23(土)13:00-17:00 2/24(日)10:30-15:30	佐藤智子(客員教員)

【図表 2-5-2】参画社員 MOG 実施一覧

	日時	支援教員
高知(第1回)	4/20(金)19:00-21:00	中澤二郎(特任教員)、岡田一水(特任教員)
高知(第2回)	5/18(金)18:30-20:00	中澤二郎(特任教員)、岡田一水(特任教員)
首都圏(第1回)	1/26(土)13:00-18:00	中澤二郎(特任教員)、宮本智司(特任教員)、加藤真(特任教員)

### 3. 管理運営に係る活動実績

#### (1) 企画運営室

平成30年度の企画運営室は、センター長と2名の副センター長、特任教員4名及び学習プログラム開発担当として招聘した客員教員1名の計8名で構成し、前掲の【図表1-3-2】に示した当該機関の役割を果たすため、15回の企画運営室会議を開催した。詳細は、以下のとおり。

【図表3-1-1】企画運営室会議開催実績一覧

	日時	場所	主な議題
第1回	4/28(土) 14:15-17:15	TKP 新橋カンファレンスセンター(東京)	・学習プログラム関連
第2回	5/29(火) 15:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・希望創発研究会(5月例会)総括 ・希望創発研究会(6月例会)シラバスについて ・自律分散協調型組織編成のあり方について
第3回	7/3(火) 15:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・希望創発研究会(6月例会)総括 ・希望創発研究会(7月例会)シラバスについて ・県外参画社員へのヒアリングスケジュールについて
第4回	7/24(火) 15:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・希望創発研究会(8月例会)準備体制及びスケジュールについて ・センター運営体制の編成案について
第5回	9/1(土) 14:30-19:30	高知大学物部キャンパス	・第1回運営推進委員会(9/14)の議題案について ・個人の成果物作成のあり方について ・希望創発研究会(9月例会)の実施内容について
第6回	10/2(火) 8:30-13:30	高知大学朝倉キャンパス	・教育研究システムに関する事項について ・希望創発研究会(10月例会)プログラム関連について
第7回	10/29(月) 15:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・H30年度チャレンジ事業経費申請の採否について ・希望創発研究会運営内規(案)について ・次年度センター体制(案)について
第8回	11/26(月) 15:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・レビュー関連レポート作成のあり方について ・1月以降の例会プログラムについて ・参画社員派遣依頼企業の確定及び依頼スケジュールについて
第9回	12/21(金) 9:00-17:00	高知大学朝倉キャンパス	・H31年度の特任教員の採用について ・個人総合Reviewの内容について ・研究会例会の今年度総括と次年度のあり方について
第10回	1/11(金) 15:00-16:45	高知大学朝倉キャンパス	・H31年度の特任教員採用等について ・クロスアポイントメント制度適用申請について ・次年度の基礎セミナー・協働セミナー開催のあり方について
第11回	1/28(月) 15:30-19:30	TKP 新橋カンファレンスセンター(東京)	・次年度協働企業の参画状況について ・個人の総合Review関連について ・次年度の基礎セミナー・協働セミナー開催のあり方について
第12回	2/18(月)	メール会議	・協働機関評価委員会要項(案)について
第13回	2/27(水) 15:00-19:00	高知大学朝倉キャンパス	・次年度協働企業の参画最終確定について ・3月例会の実施方法について
第14回	3/10(日) 16:00-19:00	高知大学朝倉キャンパス	・協働機関評価委員会対応について ・第3回運営推進委員会(3/25)の議事内容について
第15回	3/26(火) 9:00-12:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター(東京)	・次年度希望創発研究会プログラム・参画メンバー分属について ・4月例会の実施方法について

## (2) ユニット

本センターは、企画運営室を効率的に運営するため、当室の下に、「研究支援ユニット」「教育開発・学習支援ユニット」「社会学協働ユニット」を配置し、以下の編成方針の下、【図表 3-2-1】に示す役割別にチームを編成した。

- ・ 教員（兼務、特任、客員）メンバーは、原則、いずれかのテーマ別研究会（新規研究会設置準備会含む）の運営メンバーないしはサポーターとして参画する。
- ・ チームリーダーは、原則、兼務教員を対象とし、サブリーダーは教員メンバーと学習・研究サポート室の室長及び常勤職員を対象とする。
- ・ 研究支援ユニット以外のチームメンバーは、3名～7名程度で構成する。

【図表 3-2-1】ユニット及びチームの構成と取組の内容一覧

ユニット名	チーム名	取組の内容とメンバー構成
研究支援 ユニット長；渡辺	A テーマ研究会 主；大嶋 副；宮本智司(特任)	・研究会の運営 ・プログラム及び登録学生募集関連 PDCA 渡辺(副センター長)、波多野(兼務)、元田(客員) 中島好博(客員)、西村(客員)
	B テーマ研究会 主；池田 副；加藤(特任)	・研究会の運営 ・プログラム及び登録学生募集関連 PDCA 岡田(特任)、中島大輔(客員)、藤本(客員)、三橋(客員) 円谷(客員)、宮本高憲(客員)
	新規研究会設置準備会 主；池田 副；中島哲(客員)	・研究会設置に必要な環境整備 ・研究会プログラムの検討及び協力学生の確保・支援 栗原(兼務)、高橋(兼務)、岡田(特任)、中島好博(客員) 中澤陽一(客員)、佐藤(客員)
	PD/FD 主；池田 副；大嶋	・関係者の教育能力向上の実践的方法に関する検討 ・研究会全体振り返り会の運営 加藤(特任)、宮本智司(特任)、中澤二朗(特任) 船木(客員)
	学生支援・評価 主；大嶋 副；佐藤(客員)	・登録学生の支援 ・登録学生の評価に係る PDCA 渡辺(副センター長)、大石(兼務)、福井(事務・常勤)
	参画社員支援・評価 主；大嶋 副；中澤二朗(特任)	・参画社員の支援 ・参画社員の評価に係る PDCA 渡辺(副センター長)、岡田(特任)
教育開発・学習支援 ユニット長；大嶋	ICT・ポートフォリオ 主；渡辺 副；波多野(兼務)	・C-learning (CL) の運営 ・CL 以外の SNS 活用による学習支援 福井(事務・常勤)
	SBI 主；池田 副；大石(兼務)	・SBI の企画運営 ・協働企業関係者の組織化 高橋(兼務)、波多野(兼務)、宮本(客員)、池田明子(事務・教務補佐)
	社会学協働 ユニット長；池田	・参画社員派遣企業の開拓 ・協働企業の連携化に係る企画運営 加藤(特任)、中澤二朗(特任)、宮本智司(特任) 中島哲(客員)、藤本(客員)
社会学協働 ユニット長；池田	広報 主；池田 副；末本(室長)	・HP の企画運営 ・その他広報に係る企画運営 石塚(兼務)、高橋(兼務)、池田明子(事務・教務補佐) 石元(事務・事務補佐)

### (3) 運営推進委員会

運営推進委員会は、すべての教員メンバーと学務部長で構成する。平成30年度、当委員会は、下記の図表に示す内容で3回開催した。

【図表 3-3-1】運営推進委員会の実施一覧

	日時	場所	主な議題等
第1回	9/21(土) 14:00-17:00	高知大学朝倉キャンパス	・希望創発研究会(9月例会・合宿)について ・運営体制(案)について
第2回	12/17(月) 16:00-19:00	TKP 新橋カンファレンスセンター (東京)	・研究成果の可視化と研究成果の事業化構造について ・平成31年度希望創発研究会について
第3回	3/25(月) 16:00-19:00	TKP 新橋汐留ビジネスセンター (東京)	・平成30年度希望創発研究会総括について ・平成31年度希望創発研究会について

### (4) 協働機関評価委員会

協働機関評価委員会は、協働機関の視点からセンターの取組と事業目的との整合性を評価することを目的に設置した。この目的を達成するため、同委員会要項の規定により、高等教育に関わる学識経験者(1号委員)、社員を派遣するなどによりセンターの事業に参画する高知県内外の企業関係者(2号委員)及び行政関係者(3号委員)として、今年度から2年間の任期で以下の方々に委員を委嘱した。

【図表 3-4-1】協働機関評価委員会委員名簿

氏名	所属等	備考
奥野 武俊	一般社団法人公立大学協会 専務理事	1号委員
竹本 和彦	国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長	1号委員
千頭 邦夫	チカミルテック株式会社 代表取締役社長	2号委員
松 久 功	ソニー株式会社 人事センターシニアマネージャー 特命担当	2号委員
中澤 一真	佐川町 副町長	3号委員

平成30年度の協働機関評価委員会は、3月11日(月)に本学において開催し、センターの取組状況について評価いただいた。なお、評価委員会の開催に先立ち、各委員に3月9日(土)・10日(日)開催の希望創発研究会(3月例会)に参加いただき、センター事業成果の確認の機会とした。

#### 4. 2019年（令和元年）度活動における強化ポイント

2019年（令和元年）度は、事業の一層のレベルアップを図るため、教育研究及び管理運営に係るシステムの改善を行いつつ、今年度の取組で顕在化した課題等の解消を目指し以下の事項を中心に強化を図る。

##### （1）教育研究システム関連

###### ① 希望創発研究会の質量両面での強化・改善

###### 1) 量的強化

2019年（令和元年）度は、平成30年度に開設した2つの研究会に加え、開設準備を行ってきた3つ目のテーマ「“明日の日本の姿”を創る」の研究会を開設する。

###### 2) 質的強化

- ・ 今年度の取組成果を踏まえ、研究会のプログラムの設定指標となる「月例会毎のチーム状態目標」のバージョンアップを行い、その目標を達成するプログラムに改善する。
- ・ 2019年（令和元年）度の希望創発研究会は、既設の2つの研究会において継続研究テーマと新規の研究テーマが混在することになるが、今後、継続研究テーマの一層の増加に対応できるよう、こうした状況に対応できる運営方法を確立する。

###### ② 研究成果の事業化のシステムの確立

- ・ センター事業の中核の1つである研究成果の事業化システムの確立を目指し、平成30年度の検討成果を踏まえ、学外機関との連携も視野に入れたシステムの具体化を図る。
- ・ 研究成果の事業化の試行機関の1つとして、平成30年度に設置の検討を行ってきた、社会実験場「コンパクト・ダイバシティ・コミュニティ（CDC）」構想の具体化を図る。

##### （2）管理運営システム関連

###### 1. 人員面の強化

- ・ 希望創発研究会の増設に対応するため、兼務教員及び現職企業人が担当する客員教員の増強を図る。

###### 2. 機能面の強化

- ・ 希望創発研究会の増設やそれに伴う教員の増員、さらには研究成果の事業化システムの確立などの課題に的確に対応できるよう、既設機能の強化を図るとともに、CDC設置のための整備検討組織を立ち上げる。